

【現代社会学部】令和7年度 FD 活動の「年間報告」

1. 学部独自の FD 活動についての報告（*は必須項目）

(1) 公開授業・ワークショップ

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

①公開授業：

(1) ・科目：社会統計学

・担当教員：伊藤理史

・実施日時/場所：10月24日（金）3限 10202 教室

・*参加人数：10名

(2) ・科目：データ分析

・担当教員：岡井宏文

・実施日時/場所：10月27日（月）3限 10201 教室

・*参加人数：7名

②ワークショップ：

・実施日時/場所

10月29日（水）12：50～14：30 S104 会議室およびオンライン

・*参加人数：32名

・ワークショップでの意見交換内容

教材がよく作りこまれているばかりでなく、学生同士でサポートしあったり、復習用教材の作成など、実際の授業運営においても参考になるという意見が多くみられた。一方で、授業についていけない学生を出さないために、現在よりも内容を減らしたり、解説をより丁寧に行った方がよいのではないかという意見もあった。

一方で、BYOD化によって、個々の学生のPCのスペックの差や、旧情報処理教室の教卓パソコンのノート化による画面の見にくさ等、PC環境に少し問題が出てきていることもあり、大学側の施設整備は課題であるといえる。

(2) その他研修会等

※(1)以外の学部FDとして実施する研修会が対象（人権研修会を除く）

該当なし

2. 総括（今年度の学部FDを通して得られた気づきや見つかった課題等）

社会学において、調査分析の際に必要なスキルを学ぶ授業（異なる2つの科目だが、内容は基礎的なものか、より高度な内容かの違いであり、PCを使用し、履修生が実際に作業をしながら学ぶというスタイルは同様）を選定した。

「少人数の学生に対し、学生の理解度に応じて授業を進める」という進め方は共通だが、学生のPCのスペックや、そもそもの学生の理解度に大きな差がある中での授業運営はなかなか難しい点もあるように思える。その中で担当教員は「取り残さない」ための工夫をされていた。

今回公開授業として選んだ科目は学部基盤科目であり、選択必修として4単位以上必要な科目群をなす科目であるとともに、今年度からの新カリキュラムとして導入した「データ社会学プログラム」（現代社会学科）「スポーツデータサイエンスプログラム」（健康スポーツ社会学科）を修得するにあたって必要な科目となるため、より学生にとって理解が進む授業にしていくためにも、絶え間ない検証と見直しが必要だと思われる。

3. 次年度に向けての取り組み

新たに「心理学科」の創設が予定されているが、各学科の学生が共通して履修する科目となるのは、導入科目の「社会学入門A」と、そこで学んだことを復習、定着させること目的とした少人数クラス「入門演習A」のみである。

そこで、「入門演習A」（次年度は22クラス程度の予定）を対象科目としたい。

この科目は、学部創設当初からほぼその枠組みを変えずに運営してきたが、3学科体制となり、また各学科のカリキュラムが大きく異なる中で、学部における学びの基礎となる学修について検討する必要があるが出てきた。

授業見学を通じて授業内容やクラス運営の方法について意見交換をし、新たな初年次教育のあり方を考えたい。

※この内容は当該年度終了後、本学におけるFD活動の一環として、本学HPに掲載します。